四電は止栓で対応するにとどまっているが、今年２月25日米国ノースアンナ原発一号炉では、細管にそう入されていたプラグがひきちぎれ細管の曲り部を突き破り、更に別の細管にまでキズをつけるという事故が発生しており、最早、これまでの対応策では、安全は保障できないことが明らかとなっている。伊方原発の重大なる事故の発生はまさにいつ起こっても不思議ではない。

このような事態の中で、原発から住民の身の安全を守ることについては全く配慮も対策もなしに放置しながら、一方で四電に「金をくれ、金をくれとせびるばかりする」貴職の姿勢は、行政責任者として失格である。

我々住民は、我々の家族・財産・子供達の未来を守るため、貴職の姿勢に強く抗議する。

また、事故続きで大事故寸前にある１号炉・２号炉の即時運転停止、破棄と三号炉の建設中止を、貴職が四電に申し入れるよう要求する。

更に、次の点について、文書で今月末までに明らかにするよう回答を求める。

一、山口発言がなぜ出たと思うか。

二、山口発言から、抗議するまで、長い日数がたっているが、なぜか。

三、35億円の寄付金の約束はどういう形で、いつ、どこでされたのか。

四、右の点について町民に、いつ、どのような形で公表、知らせたか。

五、この寄付金を町がうけとる理由と根拠は何か。原発が安全で地域のためになるものなら、もらういわれはない。

六、伊方一号炉の細管止栓とノースアンナ原発の事故との関連と安全性についてどのような安全確認をしているか。資料をもとに明らかにせよ。

七、山口相談役が「これ以上金を要求されると電気料金を上げなければいけなくなる」と述べているが、貴職の寄付金要求によって、四電の他の住民・企業の生活・経済を圧迫することになることについて、どう考えるか。

八、貴職が、七月後半に、四国電力社員を町舎立ち入り禁止としたのは、いかなる理由と根拠にもとづいているのか。四電社員にも町民も多数いる。四電社員が町舎に立ち入ることで、いかなる町舎管理規則に対する不都合が生じることになったのか、その根拠を示せ。

この判断は町長のみの判断か。

一九八九年九月二十二日

福田直吉伊方町長殿

伊方原発反対八西連絡協議会

会長　広野房一

会計報告（'89.9/1～9/30）

収　入	
会　費	3,000
ニュース講読料	124,500
カンパ	2,000
資料売り上げ代金	10,360
コピー代金	5,160
計	145,020
支　出	
ニュース印刷代	27,811
郵送料	11,725
振替手数料	460
資料費	5,091
ゼロックス・リース料	10,300
計	55,387
差　引	89,633
積立金合計	2,589,293

伊方訴訟ニュース

第194号
1989年10月15日

伊方原発訴訟を支援する会

連絡先 〒530 大阪市北区西天満４－９－15 第一神明ビル
藤田法律事務所 電話 06－363－2112 口座 大阪３－48780

強行された「発電所まつり」
住民「法律上も危険区域の敷地内で何事か」
四電「安全だからこそやる」

９月10日、四国電力と同社労働組合とが共催で、伊方原発敷地内で「発電所まつり」を強行した。

これに先立って、「原発さよならえひめネットワーク」では、四電と、監督官庁の県と通産省に対して、「まつり」を中止するよう要請してきた。原発構内は「放射線の許容被爆線量を越えるおそれのある『周辺監視区域』」と法律でも指定された危険地域で、厳しい立ち入り制限が設けられている。そこに、ショーや飲み食いの出店をダシにし、大勢の町民を集めて騒ぐ、というのは、ＰＲの範囲を越えた安全無視の暴挙であり、事故が起こればどうするのか、と指摘。

これに対して四電は「人数制限や氏名のチェックなど厳しくしているし、構内で放射線が許容量を越したことはなく、事故も考えられない」と、つっぱねてきた。また通産省も「規則に照らしてもとくだん問題はない」と四電を支持し、県も「国も認めているから安全だと思う」と。こうして、日本で（たぶん、世界でも）初めての原発構内での「まつり」は

強行されたのである。

当日は、原発反対八西連絡協議会の人たちは、下記の抗議文を公表して、２台のクルマで伊方町内に「まつり」の危険を訴え、夕方まで、原発ゲート前で抗議行動を続けた。

一方、「えひめネットワーク」の人たちは写真にあるように、構内に入ろうとするバスを１台ごと止めて、車内の人たちへの呼び掛けを続けた。

四電は、「まつり」には予定どおり９００名（うち４００名は四電社員家族）が参加し来年もやりたい、と新聞発表した。しかし、内実は、全部でせいぜい５００名程度だったと、記者の人たちは洩らしているという。

今回、労働組合が「まつり」を共催し「連合」の時代の前ぶれ、と感じている人も多いが、各電力会社では、社員家族の間で原発への不安が高まっていることを認めており「まつり」もその対策の一つであろう。

今回の「まつり」は、厳しい世論に追い詰められている四電が、スリーマイル島やチェルノブイリの事故に学ばず「原発は安全で何も恐くない」という「安全過信」をむき出しにしたもので、きわめて危険な兆候である。

人命無視の原発まつりに対する抗議文

私たちが機会あるごとに指摘してきたように、伊方原発では、既に三十数回も事故を起こし、その都度、四国電力らは小さな事故のように装ってきた。しかし一つ間違えば、あのスリーマイルやチェルノブイリのような大事故になっていたことは言うまでもなく、今後ますます増大するのは明らかである。

にもかかわらず行政や四国電力は、住民や原発労働者に対する安全対策を何一つ行わず、なんの役にも立たない防災計画も放任されたままである。

こうした中で、四国電力及び四国電力労働組合では、「実用発電所原子炉の設置運転にかんする規則」に反して、立入禁止の構内に不特定多数の住民を招致して、原発まつりを行ったのである。

この原発まつりについて四国電力や同労組では、日ごろお世話になっている伊方町民や従業員の家族を慰安するため、というが、しかし、それは表向きのことで、本音は、危険な伊方原発を安全にみせかけるために、伊方町民らを囮に使ったといっても過言ではあるまい。

しかも、労働者とその家族の健康と生活を守るための労組までもが、この暴挙に加担しているのは理解できないところである。

また、私たちの血税で養っている警察が、末前に事件を防止するという本来の任務を忘れて、企業エゴで行われた人命無視の原発まつりに、手を貸すなどは許されるべきではなく、四国電力と癒着していると言われても仕方があるまい。

ここに、一つ間違えば、住民を伊方原発と抱合心中させるような暴挙をあえて行った四国電力と労組、これに手を貸した警察に対し、満心の怒りをこめて八西住民の名において抗議する。

一九八九年九月一〇日

伊方原発反対八西連絡協議会代表　広野房一

四国電力株式会社・四国電力労働組合殿

愛媛県警察本部殿

住民ら伊方町長に抗議

「田舎町長が金せびる」の内容を明らかに

さる８月７日、伊方原発を誘致した山本元伊方町長の記念碑祝賀会が町主催で開かれた席上で、山口四電相談役が「田舎町長がウソをいって金せびる」と、福田現町長を非難したことが外部に洩れ、町民や県民も愚弄されたと大きな問題になっている。

９月19日、八西連絡協議会や八幡浜・原発から子供を守る女の会、八幡浜地区労の代表が町長と会見した際、八西連絡協議会を代表して広野さんが下記の抗議文を手渡し、一同で町長を追及した。

町長は「予定外の３号炉増設する際の寄付金を山口さんが勘違いしている」とか「寄付金の内容は、事後に議会報告する」とか苦しい逃げに終始した、という。

リクルート事件を機に「たかり構造」が厳しく問われている中で、住民の意向を無視し札束にまみれて誘致された伊方原発のみにくい姿が、今後も明るみに出ることだろう。

抗議文

去る七月十四日、山口恒則四国電力相談役が、山本元町長の頌徳碑の祝賀会の席上で、貴職に対して「田舎の町長がウソを言って金をせびる」など発言したことについて、我々伊方住民、県民である周辺住民は大きな驚きと強い怒りを感じている。

この問題は全国紙にも報道され、九月県議会でもとりあげられ、質問議員は「県民全体が四電に物もらい呼ばわりされ、罵倒されたようなもの」と怒り、伊賀知事すら「四電に不信を持っている」と不快の念を露わにしている。

ところが、各報道によれば、貴職は、この山口発言に対して当初は何も反論せず、また問題視する気もないとしておきながら、問題が公けになってから、突如、四国電力に抗議文を出し、町舎内への四電職員の立ち入りを禁じたとのことである。

貴職の祝賀会での山口発言に、何ら反論や、ウソ呼ばわりに釈明を求めることさえしなかった態度と、即座に四電に抗議しなかった当初の姿勢は、我々住民には全く不可解なことである。

これらの経緯から誰にでも考えられるのは、「このように罵倒されても何ら反論一つできなかった福田町長には、何か後めたいことか、やましいことがあるのではないか」ということである。

また報道によれば、四国電力は三号炉建設の見返りに、三十五億円の寄付金を伊方町に約束し、これまで二十四億円を支給したというが、これは事実か。事実とすれば、なぜ今まで町民に知らされていないのか。これも全く不可解なことである。

四国電力は独占企業で、いわば公企業に等しい。その企業が、根拠のない巨額の金を支出することは、我々消費者、利用者にとって納得できないことである。

山口相談役は、８月４日付毎日新聞に「いつまでも金を要求されると電気代を値上げしなければならなくなる」と述べており、この問題だけでも、県民だけでなく、四国の四百万人住民にとって見過ごすことのできない問題となっている。

貴職らの野放図な「寄付金要求」は、四国全体の住民に対しての要求ともなっているのである。

伊方原発は、先の一号炉の定期点検の際にも、我々のかねてからの指摘通り、一次冷却材変流翼ボルトに、やはりヒビ割れが生じていることがわかり、その上、蒸気発生器の細管に損傷が生じていた。